

〔様式2〕令和6年度 羽村市立栄小学校 学校経営計画（学校評価計画表） 学校教育目標 ◎よく考えて学ぶ子 ○明るく丈夫な子 ○助け合って働く子

【目指す学校像】 ○子供一人一人がよさや可能性を發揮し、未来を切り拓くための力を身に着ける学校 ○保護者・地域の方から信頼される学校 ○「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校

【目指す児童像】 ○自分たちの学習や生活等をよりよくするよう課題をもち、その課題解決のための方法を自分なりに工夫し、最後まで根気強くやり抜く子供
○体力向上を目指すとともに、心身ともに健康でたくましく、爽やかな挨拶と元気な返事ができる子供
○一人一人の意見を尊重し、みんなと協力しながら奉仕する心をもって自らすすんで働く子供

【目指す教師像】 ○挑戦…変化を前向きに受け止め、目標に向かって挑戦する教職員 ○相手意識をもって深い信頼関係を築く教職員 ○連携・協働して、チームに貢献する教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・縦割り班活動「なかよし班活動」の実施 ・運動の日常化を図る取組の推進 ・地域の教育資源や外部人材等の活用
（簡条書きで簡潔に） 【課題】・特別支援教育の推進 ・いじめ防止対策の推進

3つの施策	中期経営目標 (施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	中間評定	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	中間評定	実態・分析	今後に向けて
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっている」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が85%であった。教員の肯定的な回答は81%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が14%、「おおむねできた」と回答した教員が67%であった。教員は、日頃から学習の進捗と家庭学習を連携させるとともに、7月の第1回家庭学習ウィークにおいては重点的に指導を行い、高学年では自主学習ノートの取組を進めた。また、児童が主体的に取り組めるよう、個に応じた声掛けを行ったり、家庭学習の手引き、学級通信、算数少人数担当からの通信により家庭との連携を図ったが、定着には個人差等の課題が見られた。	2学期以降も、授業と家庭学習を連携させながら、自主学習ノートや家庭学習記録表を活用し、第2回家庭学習ウィークを実施する。また、学級だより等を活用し、指導内容等についての情報を発信し、児童が家庭においても自主的・主体的に学習に取り組み、学習習慣を身に付けられるよう指導していく。
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっている」の肯定的な回答が70%以上である。	3			
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっている」の肯定的な回答が60%以上である。	2			
		「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっている」の肯定的な回答が60%未満である。	1			
	②確かな学力の定着	「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が92%であった。教員の肯定的な回答は100%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が14%、「おおむねできた」と回答した教員が86%であった。教員一人一人が「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業」を目指し授業改善を進め、児童の肯定的な回答が高い状況が見られた。教員は、児童が興味をもち、楽しく学ぶことができるよう、授業展開や活動方法を工夫しながら、実践に取り組んでいる。	2学期以降も、単元を通して、児童の主体的・対話的な学び・深い学びになるような学習活動・展開を工夫するとともに、活動する時間を確保していく。また、授業観察、校内研究、OJTを充実させ、それぞれの教員の良さを生かしながら、教員が協働して日々授業改善に取り組めるようにしていく。
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3			
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2			
		「分かる、楽しい、学ぶ喜びのある授業の実現を目指し授業改善ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「授業は、分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1			
	③特色のある教育の推進	「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%であった。教員の肯定的な回答は100%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が33%、「おおむねできた」と回答した教員が67%であった。教員がなかよし班の活動だけではなく様々な場面で児童のよい行いを認めたり、称賛したりしながら、児童が活動を楽しみ積極的に取り組めるよう指導してきた。児童のアンケートは「なかよし班の活動」に限定していただき、教員と児童の肯定的な回答に差が出たと考えられる。教員が意識的・継続的に声掛けすることが、児童の自己肯定感を高めることにつながっていると考えられる。	今後、「なかよし班集会」や「なかよし班花植え（花いっぱい運動）」等の縦割り班活動や、様々な場面において、児童に「やればできる・伸びている・役立っている」ことを感じさせる声掛けや指導を続け、児童の自己肯定感を高められるようにする。また、2学期は、異学年交流、運動会、展覧会の学校行事を通して、自己有用感・自己肯定感を高めしていく。
		「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3			
「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。		2	「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が60%以上である。		2				
「児童に【やればできる・伸びている・役立っている】ことを感じさせる声掛けや指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。		1	「なかよし班活動などで、楽しく積極的に活動できた」の肯定的な回答が60%未満である。		1				
④新しい課題に対応した教育の推進	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が87%であった。教員の肯定的な回答は71%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が19%、「おおむねできた」と回答した教員が52%であった。中休みの外遊び奨励や、遊ぼうデー、体育の授業などを通して、児童が外遊びを楽しむ機会を確保できたことが結果に表れたと考えられる。また、教員の肯定的な回答が児童より低くなったのは、熱中症対策等で児童の外遊びを中止する機会が多かったり、休み時間に取り組む活動等があったりしたため、外遊びの声掛けが十分にできなかったことがあげられた。	今後、体育の授業を工夫し、「遊ぼうデー」、休み時間等の外遊びの奨励を実施していく。また、安全に配慮しながら、2学期以降に実施する運動会、持久走週間、縄跳び週間・大会を通して、日常的に運動を楽しもうとする児童を育成していく。	
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
	「児童が運動することを楽しむために、体育の授業や体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「体育の授業、体育的行事、休み時間などの外遊びで、運動を楽しむことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	「親切な行為や思いやりの意義や大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4		「人に温かい心でかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4				
⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	「親切な行為や思いやりの意義や大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3	4	「人に温かい心でかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3	4	児童の肯定的な回答が90%であった。教員の肯定的な回答は95%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が43%、「おおむねできた」と回答した教員が52%であった。教員は、主に代表委員会が企画・運営してくれた「ハートフル・ウィーク」の取組、道徳の授業、学級活動などを通して、親切・思いやりの大切さについて指導を行った。	2学期以降も「はむらの道徳科授業指針」に基づく授業を行うとともに、相手の立場を考えた、相手の気持ちを思いやったりする機会を通して、児童が親切な行為や思いやりの大切さを考える指導を継続していく。9月には道徳授業地区公開講座を実施し、「望ましい習慣の形成」ができるよう、学校・保護者・地域が連携していけるようにする。	
	「親切な行為や思いやりの意義や大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「人に温かい心でかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
	「親切な行為や思いやりの意義や大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「人に温かい心でかわり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が80%以上である。	4		「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が80%以上である。	4		4	児童の肯定的な回答が92%であり、「あまり、あてはまらない」と回答した児童が6%であり、「あてはまらない」と回答した児童が2%であった。教員の肯定的な回答は100%であった。教職員は、校内委員会や学年会を通して支援が必要な児童に対して共通理解を図り、学校全体での支援・指導等を行ってきた。児童が「自分や友達の良いところ分かる」と肯定的な回答をした児童が多いことから、多くの児童が自己肯定感をもつことができていると考えられる。	今後、一人一人に応じた支援や指導ができるように、特別支援教育支援員、特別支援教育助員、スクールカウンセラー、教育相談員、スクールソーシャルワーカー等と連携し、チーム学校として対応していく。また、児童が自分のよさや友達によさに気付けるよう、様々な場面で声掛けをしたり、活躍できる場を設定していく。
	「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が70%以上である。	3		「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が60%以上である。	2	「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
「チーム栄小で、連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な評価が60%未満である。	1	「自分や友達の良いところ、頑張っていることが、分かる」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	「学校は楽しい」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88%であり、その内訳として「あまり、あてはまらない」と回答した児童が8%であり、「あてはまらない」と回答した児童が4%であった。教員の肯定的な回答は100%であった。教員は、児童観察を行い、いじめにつながる行動を見逃さずに指導を行うとともに、アンケートを毎月実施する等して、小さないじめから積極的に認知して、組織的に対応してきた。肯定的ではない回答が12%あることを踏まえ、いじめアンケートに記載されない事案等があることを念頭に置き、日頃から意識して対応していくことが必要である。	2学期以降も、すべての「児童が楽しく通える学校」を目指し、アンケート調査を月1回実施し、積極的にいじめを認知したり、安心して学校に通えるよう、学校全体で組織的に対応していく。いじめを認知した際には、被害者の心理解とケア、被害者のニーズの把握を行った上で、いじめ加害者と被害者の関係修復を行い、いじめの解消を図っていく。また、児童間のトラブル等においても、児童に寄り添いながら、丁寧な対応・組織的な対応をしていく。			
「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3	「学校は楽しい」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2	「学校は楽しい」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
「些細な兆候でも意識していじめの認知に努め、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1	「学校は楽しい」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が93%であり、「あまり、あてはまらない」と回答した児童が5%であり、「あてはまらない」と回答した児童が2%であった。教員の肯定的な回答は100%であった。教員は、日頃から学年会等で児童の活動や様子などについて、情報共有を図り、児童理解に努めている。また「挨拶プラス一言」などを意識的に行うことを通して、児童が相談しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。	2学期以降も、学年間、学校全体で情報共有を行いながら、児童理解を図り、適切な指導・支援を通して、児童の健やかな成長を促していく。また、「挨拶プラス一言」などを行い、児童が相談しやすい雰囲気づくりを行うとともに、長期休業明けには「いつでも誰でも相談週間」を実施していく。
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3			
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2			
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1			
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	教員の肯定的な回答は90%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が38%、「おおむねできた」と回答した教員が52%であった。教員自身が、自分の課題を設定する校内研究を推進したことで、教員が「話し合い活動」や「課題解決力」「ウェルビーイング」等について主体的に学びを深めていた。	2学期以降、3分科会で授業研究を計3回実施し、教師の力を高める研修等を1回以上実施する。また、「はむらの授業指針」の視点を明確に示した授業観察を2回行い、管理職からのフィードバックも充実させる。こうした取組を通して、教員の主体的な学びを促していく。			
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2						
		「校内研究や校内研修会・学年会等を通して、自分の学びを深めたり、実践したりすることができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1						
		「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4		4		児童の肯定的な回答が92%であった。教員の肯定的な回答は72%であり、その内訳として「たいへんよくできた」と回答した教員が19%、「おおむねできた」と回答した教員が53%であった。5年生稲作体験をはじめ校外学習等において地域の教育資源を活用したり、英語地域講師、読み聞かせボランティア、なかよし班花植えボランティア、安全指導（交通安全、防犯、非行防止）、6年租税教育、6年原爆先生などの様々な場面で地域の人材を活用することができた。	今後、英語、羽村学（郷土学習）、人間学（キャリア教育）をはじめ、各教科等の内容において地域の教育資源や外部人材等をさらに発掘・活用して、豊かな体験と学びの機会を設定していく。特に、2月に実施するあかがれ夢広場では、計画的に準備し、様々な外部人材を生かしたキャリア教育を実施していく。	
		「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3						
「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2								
「地域の教育資源や外部人材を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1								
⑩読書活動や図書館の利用及び学校の特色や独自性のある取組	「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	3	児童の肯定的な回答が75%であった。その内訳として「とてもできる」と回答した児童が34%であり、「できる」と回答した児童が41%であった。教員の肯定的な回答は80%であった。英語地域講師やALTを活用し、高学年では外国語の教科担任制を実施した。また、英語指導の教員研修を充実させたことが、教員の肯定的な回答につながったと考えられる。児童の肯定的ではない回答が25%あり、「英語をすすんで聞いたり、話したりあまりできない・できない」と感じている児童が全体の1/4いることが分かった。	今後、英語地域講師やALTの活用、英語教育の教員研修を充実させ、児童の英語でのコミュニケーション能力の育成を図っていく。「英語をすすんで聞いたり、話したりあまりできない・できない」と感じている児童が全体の1/4いる実態を踏まえ、児童の基礎的・基本的な知識や技能を高め、自信をもって聞いたり話したりできるように指導や活動形態等を工夫していく。	
	「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
	「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
	「英語教育でコミュニケーション能力の素地又は基礎等の育成を図れた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「英語の授業では、すすんで聞いたり、話したりすることができると思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1				